

OUR STRATEGY

電力インフラグループ



“国内外の強い需要に応えるべく、
効率の良いものづくりの体制を
整備していきます”

常務執行役員
電力インフラグループ長 今 伸一郎

事業環境

機会

- 北米や欧州の環境規制強化や更新需要増加に伴う当社特長製品の商機拡大
- データセンターや半導体工場の新設等に伴う電力需要予測の上振れ
- 国内でのレベニューキャップ制度導入による経年設備の計画更新の需要拡大
- 安定的な再生可能エネルギーである水力発電所向けの堅調な更新需要

リスク

- 地政学リスク・為替・各国の貿易や投資政策などの大きな変化
- 大型案件の工程遅れに伴う売上時期の後ろ倒しや採算性の悪化
- 環境対応製品に対する市場環境の変化

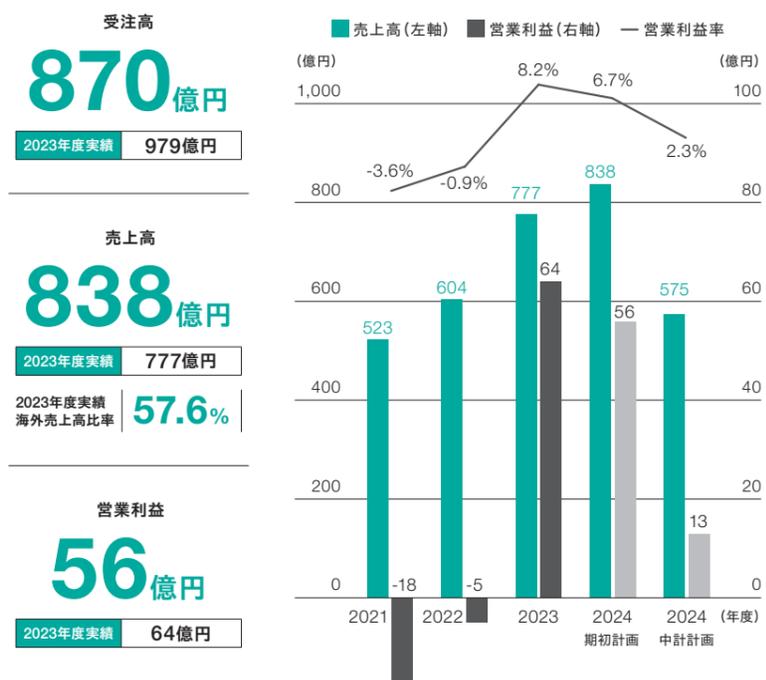
強み

- 環境対応製品の品揃え
- 海外拠点との連携により実現する最適コストと供給力
- 再エネ及び電源品質の確保に寄与する電力変換技術

2023年度の振り返り

- ▶ 海外変電事業の業容拡大と収益性改善、国内電力エネルギー事業の需要回復による増収により、現セグメント区分下では初となる営業黒字を達成
- ▶ 海外変電事業の主要国における電力設備需要の増加、環境気運の高まり、再エネ投資の拡大等を背景に受注が大幅に増加
- ▶ 国内電力エネルギー事業においても、電力会社による先々を見据えた積極的な投資計画等を受けて受注が拡大

2024年度経営目標(期初時点)



POWER INFRASTRUCTURES BUSINESS GROUP

2024年度以降の展開

世界的な電力需要の増加に伴い、市場環境に追い風

変電事業

- ▶ 世界的な環境意識の高まりや電力需要予測の拡大を受けて、強い市場環境が続く公算
- ▶ 上記の市場環境を商機として取り込むための営業力強化及び生産体制の整備
- ▶ 環境対応製品のラインアップ拡充による他社との差別化

電力エネルギー事業

- ▶ 将来にわたる需要増加や広域連系強化、電源構成の見直しに伴う送配電網整備を背景に、電力設備の需要は強さが続く見込み
- ▶ 積極的な設備投資やDXの推進を通じた、生産体制強化と効率の良いものづくりの追求

TOPICS

サステナブルな社会の実現を目指して、
エステル油入変圧器・リアクトルのラインアップを拡充

IMPACT 定量的な社会インパクト

鉱油の代わりに植物油を採用した際の
絶縁油のCO₂排出量削減効果^{※1}

約 1/6



近年、環境配慮型の変電設備に対するニーズが高まる中で、鉱油を植物由来のエステルに代替する製品の需要が増加しています。明電舎は、環境負荷の低いエステル油を絶縁油に用いる製品として、2023年6月に市場投入した変圧器に続き、2024年5月には分路リアクトルもラインアップに追加しました。これらの製品に用いる絶縁冷却媒体は、JIS C 2390生分解性電気絶縁油に規定される3種のエステル^{※2}のいずれも対応可能です。これらのエステルのうちパームヤシ油、菜種油、大豆油は、植物油を原料とする絶縁油であるため、製品使用後の絶縁油の廃棄・焼却までのプロセスを含めたライフサイクルにおいて、石油由来の鉱油を絶縁油として採用する製品と比べ、CO₂排出量の削減が可能です。

今後も、電力需要の増加や再エネ比率の引き上げに伴い、送配電網への投資が拡大することが想定される中、

こうした環境負荷の低い変電製品にも堅調な需要が見込まれています。明電舎は、より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献するサステナビリティ・パートナーとして、新しい技術と新たな価値の創造にチャレンジし続けます。



明電舎 電力インフラ営業・技術本部
技術部 変電技術課

笠井 勇飛



明電舎 電力インフラ営業・技術本部
国内営業部 電力第二課

阿原 雄喜

※1 鉱油と菜種油の原料製造・生産・焼却の各プロセスにおけるCO₂排出量の合計を比較 ※2 植物由来エステル(パームヤシ油)、天然エステル/植物油(菜種油、大豆油)、合成エステルの3種